

海舟も船酔いした

辻 憲男 (文学部教授)

これは有名な話だが、坂本龍馬は初め勝海舟（かつかいしゅう）を嫌っていた。訪ねて行って、一つ違えば斬り捨てようと思っていたところ、なんと“日本一の大人物”だった。龍馬は弟子入りし、海舟が神戸に海軍操練所を開くと、その塾頭になった。また西郷隆盛は、初対面で海舟をやっつけるつもりだったが、その弁舌と知略に驚嘆した。のち幕府に江戸攻撃を突きつけた時も、幕府軍を司る海舟に説得されて、思いとどまった。旗本出身の幕臣でありながら、内政外交の正しい方向を洞察したスーパー政治家だった。

時代に先んじて、蘭学とオランダ語を学び、長崎で海軍技術を習得した。咸臨丸の船長としてサンフランシスコまで航海した。若き福沢諭吉も乗船していた。が、時化（しけ）の太平洋で、船長はひどく船酔いしたという。

海舟は徳川慶喜（よしのぶ）を好かなかった。1864年4月、家茂（いえもち）を神戸港に案内し、操練所の建設を進言した。家茂は若年ながら英君、ただちに許可した。公武合体策により、2年前に皇女和宮（かずのみや）を迎えた第14代将軍である。同年同月生まれの17歳どうしの結婚だった。

しかし操練所は龍馬ら過激の徒の巣窟と見なされ、わずか1年で廃止となった。海舟も奉行を解任された。いま神戸市立博物館の海側、海岸通りの東南角に錨（いかり）のデザインの記念碑が建っている。



兵庫区五宮町の勝海舟住居跡。名利祥福寺や祇園神社も近い。